

テーマ	固定資産の処理
-----	---------

1. 次の取引について、仕訳を示しなさい。

- (1) 倉庫を ¥10,000,000 で購入し、仲介手数料 ¥150,000 とともに小切手を振り出して支払った。

	借方	貸方
(1)		

2. 次の取引について、減価償却費の記帳を直接法で処理した場合のそれぞれの仕訳と各勘定への記入を示しなさい。

- (1) 平成×1 年 1 月 1 日に建物 ¥5,000,000 を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。
- (2) 平成×1 年 12 月 31 日、決算にあたり、上記(1)の建物について定額法で減価償却を行った。ただし、耐用年数は 20 年、残存価額は取得原価の 10%とする。
- (3) 平成×2 年 12 月 31 日、決算にあたり、上記(1)の建物について前期と同様に減価償却を行った。
- (4) 平成×3 年 1 月 1 日に上記(1)の建物を ¥4,500,000 で売却し、代金は月末に受け取ることにした。

	借方	貸方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		

建物

テーマ	固定資産の処理
-----	---------

3. 次の取引について、減価償却費の記帳を間接法で処理した場合のそれぞれの仕訳と各勘定への記入を示しなさい。

- (1) 平成×1 年 1 月 1 日に建物 ￥5,000,000 を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。
- (2) 平成×1 年 12 月 31 日、決算にあたり、上記(1)の建物について定額法で減価償却を行った。ただし、耐用年数は 20 年、残存価額は取得原価の 10%とする。
- (3) 平成×2 年 12 月 31 日、決算にあたり、上記(1)の建物について前期と同様に減価償却を行った。
- (4) 平成×3 年 1 月 1 日に上記(1)の建物を ￥4,500,000 で売却し、代金は月末に受け取ることにした。

	借方	貸方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		

減価償却累計額

4. 次の取引について、仕訳を示しなさい。

- (1) 建物（取得原価 ￥200,000、減価償却累計額 ￥120,000）を ￥100,000 で売却し、代金は小切手で受け取った。なお、期首から売却までの期間は 3 カ月である（耐用年数：5 年、残存価額：取得原価の 10%、間接法）。

	借方	貸方
(1)		